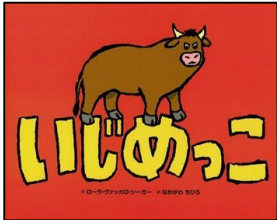


いじめはなぜおこるのでしょうか

いじめられたり、仲間外れにされると、とても悲しく、心に消えない傷を刻んでしまう場合があります。いじめたり、気づかないふりをしたり...いじめは、相手の気持ちに立って考えることが大切なのです。

いじめについて、いろんな角度から考えてみましょう。

幼児から



いじめっこ

ローラ・ヴァッカロ・シーガー／作
なががわ ちひろ／訳 あすなろ書房
牛仲間に「あっちいけ」と言われた子牛は、友だちのウサギやカメに「ちび」「ぐず」と怒りながらいばって、友だちを見下す態度をとっています。(絵本)



ちいさなつきがらす

マーカス・フィスター／作
谷川 俊太郎／訳 講談社
ちびがらすは仲間外れにされています。「月まで飛んで行けたら、遊んでやるよ」仲間のからすのいじわるな一言で、ちびがらすは月にむかって飛び立ちました。(絵本)



たったさんびきだけのいけ

宇治 勲／絵と文
PHP研究所
小さな池には、亀とおたまじゃくしと魚が住んでいました。おたまじゃくしは、陸に上がれる亀を妬んで仲間外れに...、カエルになったら今度は陸に上がれない魚を仲間外れにします。(絵本)



みんなのペロニカ

ロジャー・デュボアザン／作・絵
神宮 輝夫／訳 童話館出版
農場にやって来たかばのペロニカ。たくさんの動物たちは、ペロニカに声をかけられても誰も返事をせず仲間はずれにしています。ペロニカは悲しくて、病気になってしまいました。(絵本)



ルーシーといじめっこ

クレア・アレクサンダー／作
福本 友美子／訳 BL出版
ルーシーは絵が上手で、みんなの人気者。それを見ていたトミーは、ルーシーの本をやぶったり、描いた絵をくちやくちにしたり、鉛筆を折ったり...、いじわるをたくさんしてしまうのです。(絵本)

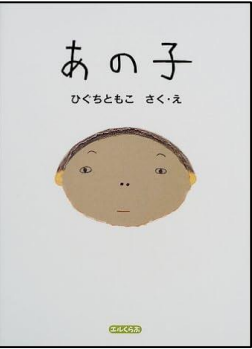


One

キャサリン・オートン／作・絵
乙武 洋匡／訳 講談社
おとなしいブルーと、おこりんぼうのレッド。レッドはブルーをいじめますが、みんなはどうすることもできません。そこに、みんなとはまるで違う「1」が現れました。(絵本)

いじめだよ！ フランチェスコ ピトー／文 ペルナデット ジェルベ／絵 栗栖 カイ／訳 ブロンズ新社	自分が正直に言ったこと、おもしろくてしてしまったいたずらが、相手を傷付けたり、イヤな気分させることがある。相手の気持ちになることが必要だと伝えます。(絵本)
だめだめネコはこまったゾウ はらだ ゆうこ／作・絵 芳岡 倫子／英訳 旺文社	ある日、動物たちは輪になって遊んでいると、ネコが、「キリンは首が長いからだめ、ゾウは鼻が長いからだめ...」と次々に仲間はずれにしていき、最後にはひとりぼっちになってしまいました。(絵本)
いじめ、みちゃった！ ジェン・グリーン／文 和久田 学／作 イモカワユウとイモカワチヒロ／絵 子どもの発達科学研究所／監修 世界文化社	学校で、悪口を言われたり、たたかれたりしている子を見た男の子。あれって、いじめかな？お兄ちゃんに相談すると...。(絵本)

小学校1～2年生から



あの子
ひぐち ともこ／作・絵
解放出版社
「あの子といっしょにおらんぼうがええで」あの子をめぐる理不尽なうわさが広がっていき、多くの子がその渦の中に巻き込まれていきます。根拠のないうわさを断つことはことはできるのでしょうか。(絵本)



ひとりひとりのやさしさ
ジャクリーン・ウッドソン／文
E.B. ルイス／絵 さくま ゆみこ／訳
BL出版
転校生のマヤに対して無視したり、からかったり。ある日マヤは学校に来なくなりました。先生は「ひとりひとりの小さな優しさが、さざなみのように世界に広がっていくのです」と話しはじめました。(絵本)

あかいほっぺた ヤン・デ・キンデル／作 野坂 悦子／訳 光村教育図書	私はトムと仲良しなのに、何気なく「トムのほっぺた、まっかっか」とからかったことが、クラス中に広がってしまい、トムへのいじめとなってしまった。いじめをやめてほしいと思っても、なかなか言い出せなくて…。(絵本)
いじめられたらどうしよう ジェン・グリーン／文 マイク・ゴードン／絵 たなか まや／訳 評論社	いろいろないじめについてどう対処したらいいのか、なぜ人は人をいじめてしまうのか、いじめられている子をみたらどうするか、子どもたちといっしょに考え、話しあってみよう。
たったひとりのきみ マックス・ルケード／作 松波 史子／訳 いのちのことば社フォレストブックス	木彫りの小人たちの住む村に、とても有名なストーバルさんが、「すてきなウイミッククラブ」の会員を選びにやってきました。でも彼女の言葉を聞いたみんなは、お互いを分け隔てるようになり、パンチネロを仲間はずれにしています。(絵本)
はじめてのゆうき そうま こうへい／作 タムラ フキコ／絵 小峰書店	としおはお父さんが大好きで、お父さんにはなんでも話します。でも、このあいだから、お父さんにかくしていることが…それは学校でなかまはずれにされていることです。
わたしから、ありがとう。 中島 啓江／原案 河原 まり子／作・絵 岩崎書店	私はクラスのいじめられっ子で、いつでもひとりぼっち。でも引越するから、あとすこし、がまんすればおしまい。お別れの日、みんなに「ありがとう」っていうのよ、と母さんは言うけど、いやだな…。(絵本)
わたしがいじわるオオカミになった日 アメリ・ジャヴォー／文 アニック・マソン／絵 ふしみ みさを／訳 パイインターナショナル	最初は仲よしだっと思っていたのに、毎日いじわるされるようになり、周りの子も誰も助けてくれない。いじめっこの嫌がらせに耐えていた私が、ある日いじめられる側からいじめる側に…。(絵本)

小学校3～4年生から



いじめのきもち
村山 士郎／編 小泉 るみ子／画
童心社
いじめられた時、いじめた時、どんな気持ちだった？ いじめられている友だちを見て、どう思った？ 小学生と中学生のストレートな思いをそのままことばにした作品がまとめられています。



どうしてぼくをいじめるの？
ルイス・サッカー／作 はら るい／訳
むかい ながまさ／絵
文研出版
いじめっ子に「鼻をほじっていた」とからかわれ、みんなから仲間外れにされるようになったマーヴィン。「ほじってない」と言えば言うほど、いじめがはいじめを呼んで…。

いじめているきみへ 春名 風花／文 みきぐち／絵 朝日新聞出版	「ただ遊んでいるだけなんだよね。自分より弱いおもちゃで。相手を人間だと思ってたら、いじめなんてできないよね。」著者が小学6年生の時に書いた朝日新聞の掲載コラム。「いじめているきみ」に向けた、メッセージ絵本です。(絵本)
--	---

きみは知らないほうがいい 岩瀬 成子／作 長谷川 集平／絵 文研出版	米利（めり）は、クラスの昼間（ひるま）くんとバスでいっしょになり、どこへ行くのか聞くと、「きみは知らないほうがいい」と言われます。米利は5年生のときに学校に行けなくなったという事情を抱えていましたが、昼間くんも「いじめ」をうけて別の学校から転校してきていたのです。
名前をうばわれたなかまたち タシエス／作 横湯 園子／訳 さ・え・ら書房	ボクには名前がない。ボクの名前は、学校でみんなにうばわれてしまったから。いじめ暴力の犠牲者は、毎日恐怖にさらされ、「自分である」という感情をこなごなにされ、生きようとする意志さえ失われて、死の崖っぷちに立っている…。(絵本)
百まいのドレス エレナー・エスティス／作 石井 桃子／訳 ルイス・スロボドキン／絵 岩波書店	いつも色あせた青い服を着ているワングが「あたし、ドレスを百まい持ってる」と言い張るので、クラスの女の子たちは毎日からかいます。マデラインはワングがかわいそうと思いながらも、皆に「やめよう」という勇気がありませんでした。
わたしのせいじゃない レイフ・クリスチャンソン／文 ディック・ステンペリ／絵 にもんじ まさあき／訳 岩崎書店	学校の教室で一人の男の子が泣いています。一体どうしたのでしょうか。子どもたちの言い分は「大勢でやったのよ。ひとりではとめられなかった。わたしのせいじゃないわ」 淡々と言いわけが繰り返されていきます。責任について考える一冊です。

小学校5～6年生から



わたしのいもうと

松谷 みよ子／文 味戸 ケイコ／絵
 偕成社
 新しい町へ引っ越し、新しい学校に通いはじめた妹は、いじめられ、無視され傷つき、登校もしなくなりました。妹は心を閉ざしたまま、向こうをむいて、ふりむいてくれません。
 (絵本)



しらんぷり

梅田 俊作／作・絵 梅田 佳子／作
 ポプラ社
 クラスメイトのドンチャンがいじめにあっている。それなのに、ぼくらは、見ない・分からん・しらんぷり…。口にだしたら、ぼくたちがやられるからだ。でも、ぼくはしらんぷりを続けることにいたたまれなくなった。

いじめから脱出しよう！ 玉間 伸啓／著 小学館	「いじめの型」や、「いじめっ子はどんなことを考えているのか」「いじめが起きるまでの流れ」など、いじめっ子側の事情を詳しく説明し、いじめから自分をまもる方法を伝えます。
いじめのある世界に生きる君たちへ 中井 久夫／著 中央公論新社	いじめられている子ども、いじめで傷ついた子ども、いじめをみている子どもたちが、自分の状況や体験を理解し、「いじめられても、逃げる、死なない」ために、大切な情報を的確に伝えてくれる1冊です。
いじめられている君へ いじめている君へ いじめを見ている君へ 朝日新聞社／編 秋元 オ加／ほか著 朝日新聞出版	真剣に「いじめ」を考えてほしい。そして、ひとりで悩んでいるきみには、もっともっと生きてほしい。さまざまな分野で活躍する著名人63人がいじめをテーマに朝日新聞で書いたコラムをまとめたものです。
からすたろう やしま たろう／文・絵 偕成社	話すことができず、授業について行けずに「ちび」とあだ名されて他の生徒からは無視され仲間はずれにされた。6年生になり、受け持ちになりたいそべ先生は、少年が山いもや花のことをよく知っているので感心しました。(絵本)
チェンジング 吉富 多美／著 金の星社	クラスのいじめに耐えていた森河大夢は、いじめっ子たちから逃れているうちに偶然知り合った料理の先生、香奈子と出会い料理の世界に触れ、現実立ちむかう勇気を得ていきます。
ブルーとオレンジ 福田 隆浩／著 講談社	クラス内の上下関係を敏感に感じ取りながら日々のいじめに耐えていた“ブルー”。カーストの中間層として無難に毎日を過ごしていた、世渡り上手の“オレンジ”。スクールカーストといじめにさらされている子どもたちの姿が痛いほどリアルに描かれています。

中学生から

いい人ランキング 吉野 万理子／著 あすなろ書房	人の悪口を言わないし、掃除はサボらないし、「宿題を見せて」と頼まれたら気前よく見せる。「いい人」でいれば、安全だと思っていた。夏休み明けの教室で起こった小さな変化は、やがていじめへと…。
いじめ 心の中がのぞけたら 本山 理咲／著 朝日学生新聞社	中学生の投書や取材をもとに、いじめの体験をリアルに再構成して描いた漫画。いじめられる子、いじめる子、それにかかわる人たちの本音や微妙な心模様を描いています。こうしたら、こう考えたら…というヒントがいっぱいです。
いじめの中で生きるあなたへ 小森 美登里／著 WAVE出版	「いじめは子どもたちのせいじゃない！」いじめの存在するこの社会は、まぎれもなく、大人がつくったもの。いじめられる側にも問題があるって本当？やられたらやり返す、それって正しいこと？一人娘をいじめで亡くした母が、全国の子どもたちに語りかけたメッセージ。
#8月31日の夜に。生きるのがつらい10代のあなたへ NHK「ハートネットTV」／編 毎日新聞出版	「学校に行きたくない」「生きるのがつらい」など、悩む10代の声を受け止めてきたプロジェクト、NHKEテレ『#8月31日の夜に。』番組サイト等へ寄せられた現役10代の日記と、かつての10代の体験談が収録されています。
死ぬんじゃないぞ!! 中川 翔子／著 文藝春秋	あなたの命はあなたのもの。誰にも奪うことはできない。中学時代にいじめられて不登校になった経験をもとに、エッセイと漫画で綴る「学校に行きたくない、死にたい」と思う子どもたちへの強いメッセージ。
友だちってなんだろう？ 齋藤 孝／著 誠文堂新光社	友だちは「気の合う人」とだけでいい。でも、「気の合わない人」とも、いがみ合わず、傷つけあわずに共存していけるよう、人づきあいのスキルをみがこう。大切なのは、自分の世界、「ひとりを楽しめる」力をもつこと。「友だち関係に対する意識改革のすすめ」です。
8分音符のプレリュード 松本 祐子／作 小峰書店	有名天才ピアニスト・透子が転校してきたことにより、優等生の果南は、今まで気づかなかった自分の一面を知ることになります。信じていた人の裏切り、同級生からの仲間外れ…。絶望やにがい経験をしながら、成長していく2人の姿が描かれています。
FACES いじめをこえて NHK「FACES」プロジェクト KADOKAWA	いじめでつらい思いをした国籍問わず20人の人たちが、自分らしく生きられるようになった“きっかけ”を語るメッセージサイトを書籍化。
マンガでわかる! 10代に伝えたい名言集 偉人が232人 定政 敬子／文 北谷 彩夏／絵 大和書房	友達とのつきあいで悩んでいる。いじめにあって、どうしていいかわからない。どうしても人に好かれたいと思ってしまう…。189人の偉人たちの、10代の若者たちの悩みにそっと寄り添う言葉、同じような悩みで苦しんだ偉人のエピソードを紹介します。
笑おうね生きようね 本多 正識／著 小学館	著者は、よしもとNSCの名物講師。芸人になる人の中にも、過去にいじめを受けたという人は少なくありません。著者自身も喘息の持病で留年したことをきっかけに、小学生時代、いじめで辛い思いを経験しています。生きているからこそ、今があると語ります。

大人に向けて

いじめからは夢を持って逃げましょう! 長野 雅弘／著 パンローリング	もしも、理不尽ないじめを受けて、自分の愛する子が自ら命を絶ってしまったとしたらどうでしょう？悪質ないじめからは夢を持って逃げましょう! いじめで悩んでいる子どもや親に向けて、大きくなってしまったいじめに対する正しい対処法を伝授しています。
いじめで死なせない 岸田 雪子／著 新潮社	大人が異常に気づき、自殺を踏みとどまった子どもたちがいる。学校で激化するいじめの中で、生と死を分けたものは何か？加害側少年の心理から、微弱なSOSに大人が気づくための11のきっかけまで、親だからできることを探ります。
いじめない力、いじめられない力 品川 裕香／著 岩崎書店	いじめやトラブルから守るために親はどうすればいいのか。いじめる側、いじめられる側のどちらにもならないテクニックはトレーニングで身につく。いじめの要因を探り、それにうまく対処できる子どもを育てるためのバイブル。
いじめのことばから子どもの心を守るレッスン 堀田 秀吾／著 河出書房新社	教室やSNSなどいじめの言葉で必要以上に子どもが傷つけられないように。気づかないうちに誰かを不用意な言葉で傷つけさせないために。被害者にも加害者にもさせないための、ことばの使い方・伝え方・考え方を具体的に教えます。